



## 好奇心を育む 魅力あるプログラムの提供

徳山第4団の主な活動拠点である「周南市」は、自然と産業が調和した場所。本州最西端に位置する山口県の東南部にある周南市は、南に瀬戸内海を臨み、大規模なコンビナートが立ち並び工場夜景も望める一方、北は中国山地を背にして豊かな自然が広がるとても過ごしやすい街です。



徳山第4団は、そんな周南市で1954年に設立され、2024年には発足70周年を迎える歴史ある団です。2023年度のスカウト数は25名。小学校低学年から高校生の男女が在籍し活動しています。20年ほど前は約40名程度であったが、スカウト対象年齢の生活環境の変化を受け伸び悩んだものの、現在は若干の増加傾向がうかがえる。また、指導者も30代から後期高齢者まで、24名の多才な男女の指導者が、それぞれの能力や特技を生かし指導にあたっています。



### バーチャル空間にはない体験を大切に

徳山第4団の活動エリアは市内に留まらず、イベントによっては近隣の市や県内外へも範囲を広め活動している。恒例の活動は、スカウト活動の基本である野外活動と、奉仕活動（募金活動・交通安全キャンペーン・清掃活動への参加）、近年はコロナ禍により余儀なく中止されていた、伝統行事への参加があります。どの活動も、個々では体験が難しいものばかり。好奇心を育み「興味があることに挑戦する」ようになる、魅力あるプログラムの提供を意識している。

「仕事と同じくらい大切にすると気づきました」。そう語るのは、徳山第4団のリーダー。元々仕事が一番優先だったが、子どものボーイスカウト入隊をきっかけに指導者へ。近年、学校・部活・塾や習い事で多忙な状況から、友達との遊びよりもスマホゲームなどを優先し没頭する子どもが増えている。そんな現代の現状に危惧し、徳山第4団では、学校や家庭では体験できない「実際に自然の中で活動し、体験・学び・楽しみを会得すること」を大切に活動しています。



## 地域の特性を生かした奉仕活動

取材の日は、「奉仕活動（共同募金）」の日。徳山第4団では、周南市社会福祉協議会が行う「赤い羽根共同募金活動」へ毎年奉仕を行っています。この日予定していた子育てに関するイベントの一部として活動予定でしたが、雨天予想のため中止となり、急遽 駅前に場所を移しての活動となりました。

ビーバー隊は当日出席できなかったものの、カブ隊以上のスカウトが半数ほど参加。より多くの方々に協力いただけるよう、募金活動は徳山駅前で3か所に分かれて行われました。待ちゆく人々の数はさほど多くなく、子どもたちは積極的に声を出し、地域の方々との交流を楽しみながら活動。子どもたちが自ら考え主体的に活動する姿に、地域の方々からは多くのご協力を得られました。スカウト達はその方々の気持ちを直接受け取る貴重な経験をしたことでしょう。

7月には、周南市の南に面する瀬戸内海の豊

かな自然に触れる、「海浜清掃・稚魚放流活動」へ参加。大津島までフェリーで渡り、海岸に流れ着いた漂着物等から、プラスチックゴミを集中的に拾い集めます。スカウト・指導者が協力して一斉に清掃することで、きれいな海岸となりました。テレビやスマホからの情報ではなく、身近な地域の環境問題に触れるなどして「役に立つことの大切さ」が学べる貴重な経験ができるのも魅力です。



## 保護者会との連携・体験会の開催でアピール

このように、地域のあらゆる場所で活動を行う徳山第4団は、近年スカウト数が増加傾向。活動中も団の旗を掲げ存在をアピールするだけでなく、保護者との連携も強化し、周知に努めています。各隊の月間行事の案内を前月中に各家庭に配布したり、保護者の方への説明会を年に2回実施、指導者を含む育成会員の方には、地区などで開催される講習会などへの参加を促す等、様々な活動を行っています。主にビーバー年代を対象とした「体験プログラム」も年に2回ほど実施し、facebook でも体験会の情報を発信。

活動に同伴していた保護者の方数名に伺ったところ、体験会への参加や、知人からの口コミによるものなど、やはり魅力的な体験会の開催や、保護者の方の話題になることがヒントになるようだ。

また、指導者はより良い指導が行えるよう、研修や講習会などに積極的に参加するよう努め、活動毎には数枚の画像と思いの伝わる感想文を添えて、休まず SNS で発信を続けていくなどの小さな積み重ねと、リーダーをはじめとした指導者たちの熱い思いが、スカウト増加に繋がっているのかもしれない。

